

## 地域医療支援病院の 名称承認を受けました

平成30年6月18日に鳥取県知事から地域医療支援病院の名称承認を受けました。地域医療支援病院とは、医療は身近な地域で提供されることが望ましいという観点から、かかりつけ医(かかりつけ歯科医)を支援し、二次医療圏単位で地域医療の充実を図る病院です。

具体的には、次のような役割を担います。

1. 他の医療機関からの紹介患者に医療を提供すると共に、かかりつけ医へ患者を紹介
2. 病院施設、医療機器(CT、MRI等)の共同利用の実施
3. 救急医療の提供
4. 地域の医療従事者の資質向上を図るための研修の実施

県内では以前から東部に3病院、西部に2病院の地域医療支援病院がありますが、中部医療圏には承認を受けた病院がありませんでした。

承認要件には、紹介率(他院からの紹介)と逆紹介率(他院への紹介)が基準以上であること、設備等を地域の医療従事者が利用できる体制を確保していること、集中治療室等必要な施設

地域医療支援病院の名称承認を受けました	1
健康公開講座開催報告 7月1日(日)開催「胸部のがんの治療」	2
第2回オープンホスピタル開催	3
如春会活動報告	4
接遇ミシュラン始動!	4
テレビ健康講座「健やか見聞録」	5
院内災害訓練	5
1年目研修医の今!	6
お知らせ・新任医師・退職者の紹介	6

を有することなどがありますが、29年度に承認に向けた取組みを始動し、これまで基準に達していなかった紹介率と逆紹介率の要件(それぞれ50%、70%以上)を全医師の協力の元に達成し承認を受けることができました。

今回の承認により当院の診療体制や地域連携を推進する方針に変更はなく、これまでの取組みをさらに推進する体制を整えたということです。

中部で初めての地域医療支援病院として今後も一層、地域との連携や医療の充実への努力をしていきます。

経営課 遠藤 紅弥



## 健康公開講座開催報告

### 7月1日（日）開催 「胸部のがんの治療」

#### 講演1「食道がんの治療」

医療局 西江浩副局長

食道は咽頭から胃の入り口までの食物の通り道となる消化管です。肺に挟まれ、大動脈が後ろにあり、さらに腹部の消化管とは解剖学的に大きな違いがあるため、がんの治療法を複雑にしています。

食道がんは、胃がんや大腸がんに比べ悪性度の高い予後の悪いがんではありますが、早期に発見すればほかのがん同様に内視鏡的切除や手術で治癒も望めるがんです。

お酒をよく飲まれる方やヘビースモーカーの方、お酒を飲むとすぐ顔が赤くなる方は食道がんのリスクがとても高いので、生活習慣を改めると同時に定期的に胃カメラでの検診を受けてください。

#### ◆講演2「肺がんの治療」

吹野俊介副院長

肺がんは1993年以来、死亡率の第一位を独占し続けていますが、決して治らない病気ではありません。

どの臓器のがんでも同じですが、早期がんであれば治癒する確率が高くなります。肺がんも早い段階で発見すれば90%以上の確率で治癒します。厚生病院での2センチ以下の肺がん手術の治癒率は91.9%です。つまり現時点では、2センチ以下の肺がんを発見し治療することが、肺がんを治癒に結び付ける確実な方法ということになります。

一方で進行肺がんは治りにくいのが現状です。しかし、手術とともに薬物治療は確実に進歩しています。従来の抗がん剤は正常な細胞も攻撃の

対象となっていました。今はピンポイントでがん細胞を攻撃することのできる分子標的治療薬というものがあります。手術に加え、新しい薬物治療と放射線治療を併用する集学的治療を行うことによって治癒率を上げます。

毎年肺がん検診を受診すれば、早期肺がんを発見できる確率が高くなります。たばこを吸っている方・過去に吸っていた方は肺が傷害されていて通常の胸部レントゲン写真では小さな肺がんは発見しにくいので、胸部CTを撮ることをお勧めします。

肺がんの予防は「禁煙と受動喫煙の防止」以外にありません。たばこだけが肺がんの原因ではありませんが、たばこが肺がん発生の最も大きな要因であることは間違いありません。

#### ◆講演3「乳がんの治療」

外科 児玉渉医長

乳がんは女性のがんでは発生率が最も高く、近年増加傾向です。ただし、ほかのがんより治りやすいといわれ、5年生存率は約89%と報告されており、早期に発見し、しっかり治療することができれば治るがんといえます。

早期発見をするには、月1回の自己触診と2年に1回のマンモグラフィー検診が有効です。

乳がんの治療は、局所治療（手術療法と放射線療法）に全身治療（薬物療法）を加えてがんを根絶させます。

医師、看護師のみではなく薬剤師や栄養士など多職種で患者を支え、ひとりひとりに有効な治療薬、治療方法を選択し、乳がんをコントロールしながら生活を送れるよう病院としてサポートします。

## 第2回オープンホスピタル開催

昨年度初めて開催し好評をいただいた厚生病院オープンホスピタルを今年度も開催しました。

厚生病院の情報発信と人材育成・人材確保を目的に「チーム医療の現場を観てみよう」をテーマに掲げ、6月16日、看護・医療技術分野を中心に参加体験型イベントを企画しました。

午前の部は看護・医療系の学生を対象に、午後の部は高校生を対象に見学・体験をしてもらいました。

多種多様で特徴のある病院業務や職種のブースを準備し、普段入ることのできない手術室で職員演じる模擬帝王切開の様子を見

### 手術室(模擬帝王切開)



### 薬剤部



### オリエンテーション



学してもらったり、医療技術職のお仕事紹介、また実際に器械に触れてもらうなど工夫を凝らしました。

また、各ブースでは参加者に年齢の近い職員が説明を担当し、参加した学生たちもあまり緊張せず、和やかな雰囲気の中で参加していただけただけなのではないでしょうか。

今回は昨年の3倍近い総勢144名に参加していただき、盛況となりました。若いみなさんが元気よく見学されていたのがとても印象的でした。

担当したスタッフや参加者の笑顔あふれる一日となりました。

今後も新たな企画を取り入れ厚生病院の情報発信をしていきたいと考えています。

医療技術局副局長 森里昭典

### スタッフ





## 如春会活動報告

### ●倉吉みつぼし踊り大会参加

8月4日、毎年恒例となっている倉吉みつぼし踊り大会に医師や看護師など職員総勢約100名で参加しました。ひととき目立つ大きなチームによる元気な踊りと掛け声で倉吉の夏を盛り上げたことが評価され、実行委員会から特別賞をいただきました。これからも地域の賑わいに貢献したいと思います。



### ●球技大会の開催

10月6日、台風接近による季節外れの猛暑の中、ソフトバレーボール大会を開催しました。応援を含め約140名の職員が参加し、熱戦が繰り広げられました。優勝は外来チーム、準優勝は6階病棟チームという結果となりました。勝負がついた後は互いに健闘をたたえ合い、より一層職員が親睦を図ることができました。



総務課 森田圭介

## 接遇ミシュラン始動！

「思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院」を目指し、接遇ミシュランが始動しました。

年3回、接遇週間を設け、期間中に複数の覆面評価員(職員)が院内の各部署をまわって接遇状況を評価します。改善点はもちろん、良かった点も評価します。

すでに2回、評価を終えており、連続して最高評価の“三ツ星”を獲得している部署もあり、職員の関心も高くなってきているようです。

今後も接遇マナーの基本である「あいさつ」「笑顔」「身だしなみ」「言葉遣い」に気を付けて、みなさんに気持ちよく病院を利用していただけよう努力していきたいと思ひます。

患者サービス改善委員会 湯浅良恵

↑↑ SETSUGU MICHELIN 🍷



[手術室:連続して三ツ星獲得!]



## テレビ健康講座「健やか見聞録」

厚生病院では、平成27年1月からケーブルテレビ(TCC)において、テレビ健康講座を行っています。

鳥取県中部地区の住民の皆様は、病気についての理解を深めていただき、さらに予防について取り組んでいただくことを目的としています。

### テレビ健康講座「健やか見聞録」

今後の予定

平成30年11月:インフルエンザ

平成30年12月:肝臓

平成31年 1月:乳がん

平成31年 2月:更年期障害

平成31年 3月:めまい

講座内容は月変わりとなっていて、内科、外科、脳神経内科外科、婦人科、小児科、耳鼻科、整形外科などの一般的、代表的な疾患について、厚生病院で診療している医師が質問に答える形式でわかりやすく説明します。

ぜひテレビを視聴していただき、疑問に思うことや当てはまることがあれば、厚生病院へ相談または受診してください。

### 【相談窓口】

鳥取県立厚生病院内 患者相談窓口

電話:0858-22-8181(代表)

※放送済みの講座については、厚生病院のウェブサイト (<https://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/>) でご覧いただけます。

## 院内災害訓練

中部地震時の経験を踏まえ、昨年に引続き平成30年10月13日に地震発生時の対応を確認する院内災害訓練を行いました。

今回は休日の災害発生を想定し、院内には医師を含め最小限の職員しかいない状況から暫定対策本部を立上げ、職員招集を行い本格的な災害対応を実施していく訓練としました。

参加職員は100名(医師15名、看護師54名、技師19名、事務職員12名)。鳥取県立倉吉総合看護専門学校学生にも協力いただき、43名の傷病者が約3時間の間に来院するという想定で訓練し、指揮命令系統・役割の確認や、前回の訓練で指摘された不備、改善点を確認しながら実施しました。

回を重ねるごとに改善され、有意義な訓練



となっていると実感できる充実した内容となりました。

今回の訓練の経験を活かし、中部医療圏の災害拠点病院としての役割を果たせるよう、災害時への対応に備えていきたいと思っております。

総務課 遠藤晃



# 1年目研修医の今！

厚生病院での初期研修が始まり、早いもので半年が経ちました。

上半期で内科系診療科での研修が終了し、10月からは外科系診療科での研修がスタートしています。

先生方をはじめ当院のスタッフ・患者の皆様にも多くのことを教えられ、勉強させていただきながら診療に取り組んでいます。

臨床現場での経験も浅く、悩むことも学ぶことも多々ありますが、皆様のお蔭で充実した研修医生活を送らせていただき感謝しています。



▲左から 菅沼研修医・福田研修医・池田研修医

これからもなにとぞよろしくお願いいたします。

研修医 菅沼和弘

## 健康公開講座のご案内

## 新任医師紹介 (平成30年7月1日採用)

日時: 11月11日(日)13時30分～15時15分

テーマ: 生活習慣病とがん

内容: 講演1 「糖尿病とがん」

講演2 「中高年女性の健康と婦人科がん」

会場: 鳥取県保健事業団中部健康管理センター

研修室(倉吉市米田町)

※入場は無料です。上履をご持参ください。

台風のため日時・会場を変更しました

「ひとこと」  
七月から厚生病院で勤務させて頂いております。初期研修医としてお世話になった病院でもありますが、このたびは脳神経外科医として赴任して参りました。脳卒中や脳腫瘍、頭部外傷など、脳神経外科領域で幅広く中部地区の医療に貢献できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



脳神経外科  
小椋 貴文(副医長)

(平成30年10月1日採用)

「ひとこと」  
十月から四年ぶりに厚生病院に勤務することになりました。放射線科医として画像診断、IVR、放射線治療のすべての領域で中部地区の医療に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



放射線科  
遠藤 雅之(医長)

## 退職者

医師

脳神経外科

宇野 哲史(六月末付)

内科部長

佐藤 徹(七月十五日付)

放射線科

河合 剛(九月末付)

お世話になりました



編集 鳥取県立厚生病院 院内広報委員会  
発行 鳥取県立厚生病院  
〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150番地  
電話 0858-22-8181(代) ファクシミリ 0858-22-1350

厚生病院のホームページも、ぜひご利用ください。パソコン、スマートフォンからご覧いただけます。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/>

